マリンスポーツ実習を通して受講生に見られる心理的な変容
―テキストマイニングと心理的尺度に基づいて―

2114018　　栗山　真乙　（海洋スポーツ・健康科学研究室）

Ⅰ．はじめに（研究の背景）

筆者は 2022 年度に「マリンスポーツ実習」に参加し，価値観に変化があったように感じた。本研究では，マリンスポーツ実習への参加が受講生にどのような影響を与えているか調査することを目的とする。

Ⅱ．先行研究と調査方法

大島ら(2008)の先行研究 [1]では，実習前後にマリンスポーツや海洋環境保全に対する意識の変化が見られたと述べられていたが，一度の調査では実習独自の結果であると容易に判断できないと述べられていた。そこで，本研究ではテキストマイニングを用いて 2022 年度～2024 年度の受講生 35 名の「振り返りシート」を分析し，2024 年度の受講生 13 名を対象に，実習参加前，参加直後，参加後 1 か月に計 3 回の「大学生における日常生活スキル尺度」[2]に基づいた質問紙調査を行った。

Ⅲ．結果

KH-Coder を使ったテキストマイニング分析においては、全ての年において、1 位に「する」，2 位に「できる」で出現回数の多い言葉であった。また、質問紙調査の結果を一要因分散分析したところ，〈項目７：どんな内容のことでも友人らと本音で話し合うことができる〉について，実習直前(2.39±0.65)から実習直後(3.20±0.69)に得点が有意に向上したことが認められたが($F=4.85$, $p<0.05$)，実習後 1 か月(2.85±0.56)までは持続しなかった($F=4.28$, $p>0.05$)。

Ⅳ．考察

「振り返りシート」によって、日々の学びが深まっていると考えられる。また、受講生の自己開示において，統計的に一過性の変化をもたらしていることがわかった。

Ⅴ．結論

以上の分析から，自然の中で生活をし、マリンスポーツをするという決して楽ではない非日常的な生活だからこそ，受講生に心理的な影響を与えたと考えられる。

主な参考文献

(1)　大島弥生　佐野裕司　田村祐司　村松園江　「マリンスポーツ実習における海洋体験が受講生に与える影響―振り返りによる体験の深化へ向けて―」　東京海洋大学研究報告 3 p.51-60（2008）

(2)　島本好平 石井源信　「学生における日常生活スキル尺度の開発」　教育心理学研究 54 巻 2 号 p.211-221（2006）